



# カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

7月号14日号

令和5年7月14日

校長 小堺 広司

## 学校教育目標

「自他の生命と人権を尊重し、  
ねばり強くたくましい心豊かな  
児童生徒を育成する」

～世界の架け橋となる子ども  
たちの育成を願って～



## 23日間の冬休みを 有意義にお過ごしください

「ひとつ経験するたびに、ひとつ大きく成長する」1学期を振り返ると、そんな言葉がふさわしい場面をたくさん思い出します。

真剣に授業を受け、しっかりした学力が身に付きました。休み時間や教室の会話から、仲間を思いやる優しい心が育ちました。クラブ・委員会活動・数々の行事から、積極的に協力しあう集団になりました。

「リオ日学ファミリー」の言葉のもと、15人の子どもたちがひとつになって努力したからこそ、大きく成長できました。

1学期を無事に終わることが出来ます。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

冬休みが始まります。1学期の復習・読書・お手伝い・家族の団らん・習い事の充実など、気候の変化に負けず、23日間の冬休みを安全に充実してお過ごしください。

また次の季節に向けて、教職員一同、努力してまいります。

＜星に願いを！ セタ飾りを楽しみました＞



リオ日学の玄関前に笹を飾りました。

文化委員会が中心となって装飾を作り、短冊に願い事を書いて飾ってくれました。願い事を読むと温かな気持ちになります。「家族がしあわせになりますように」「世界が平和になりますように」「みんなと思い出が作れますように」「字がきれいに書けますように」「身長がのびますように」「円高になってほしい」「サッカー選手になれますように」「英語がしゃべれるようになりたい」「上手なサッカープレーヤーになる」「あんまんが食べたい」「ビーチサッカーで3点決める」など、すべてを応援したくなります。

「リオ日学の皆が笑顔で幸せになりますように」私の願いです。

## ＜終業式 校長講話より＞

1学期（66日間）、晴れの日も雨の日も、しっかり登校できました。みなさんのお父さんお母さんは、元気で学校に通ってくれることを願っています。その思いを感じながら、よく頑張りました。

1学期を振り返って、がんばったことのひとつひとつが大きな自信となります。でも、納得できなかったことは、冬休みを充電期間として振り返り、2学期から始まる新しい自分との出会いを楽しみにしてください。

さて日本では7月から8月はお盆・原爆の日・終戦の日など、亡くなった方の魂を悼む文化が日本にはあります。私にとっての7月も特別な月です。もう12年が経ちますが、父と永遠の別れをしました。人は亡くなる時、最後まで生き続ける感覚が2つあると言われています。何だと思いませんか。「手の感触」と「聴覚」です。私は父が入院する病院で、このツボ押し棒でむくんだ足や手をマッサージしましたが、温かくなることはありませんでした。翌日、仕事があるため、「もう帰るよ」と声をかけると、「アーッ、アーッ」と大きな声で返事をしてくれました。でも、その時目はつぶったままでした。帰りの車が自宅に近づいたころ、父が亡くなった連絡を受けました。

私は7月が来るたびに、父の運命に支えられ、この世に命を授けてもらい、皆さんと出会い、同じ時を刻む幸せを感じます。4月の始業式でこの写真（海防艦）の話をしました。「昭和20年4月、上海沖で戦闘が起きた時、潜水艦を沈めるため船尾の機雷付近にいた父に、艦長が『お前は若いから、A兵曹長（32歳妻子持）を船尾に、代わりに船の前方で機関銃を撃て』と命じ、この日に限って敵の爆弾がA兵曹長に命中し、それがクッションとなって破裂することなく爆弾は海へ落ちていった。」

今は亡き父の声を聞くことはできませんが、生かされていることに感謝してこの季節を過ごそうと思います。

この世に生を受け、仲間と出会い、笑って、泣いて、怒って、たくさんの経験ができます。

リオ日学での出会いに感謝して、15人の仲間、先生方、職員の皆さん、一番は親を大切にしてください。8月7日、みなさんと元気に会えることを楽しみにしています。



### ○ 思い出いっぱい、バス遠足！

7月12日(水)、マラカナンスタジアム (Estádio do Maracanã) とリオデジャネイロ動物園 (BioParque do Rio) へ、バス遠足に行ってきました。

天候に恵まれ、道路も混雑することなく、安全で楽しい1日を過ごすことができました。

マラカナンスタジアムでは、サッカー王国ブラジルならではの歴史と伝統を味わうことができ、展示室やロッカールームを見た後で、開放感ある屋根ピッチや巨大なスタンドに圧倒され、大きな屋根の反響を利用して、みんなでニッポンコールをしました。

リオデジャネイロ動物園では、ナマケモノ・アライクイ・カピバラなど、ブラジルならではの動物や人気のライオン・ゾウなど、たくさんの動物を見ることができました。この日は、地元の小学生や中学生もたくさん来ていて、「コンニチハ」と声をかけられ手を振り合ったり、一緒に写真を撮ったりしました。

お弁当の時間では、小さな公園の木陰で食べ、食後は滑り台やブランコ・ジャングルジムで思う存分遊びました。

グループ行動では、ミッションをクリアするために高学年の隊長を中心の3人班と教員1名に分かれて行動し、見逃した動物を見たり、他の班と一緒に写真を撮ったり、ゆっくり過ごせました。

最後のおみやげ屋では、自分一人で何を買うか決め、残りのお金を計算しながら、楽しく買い物ことができました。特に記念コインが人気でした。

出発前、子どもたちに話した「笑顔」と「安全」が実現でき、最高の1日でした。



### ○ 体験入学、みんな仲良し！



7月3日(月)～7日(金)、体験入学を実施し、小学部4年生3人、中学部1年生1人、中学部2年生2人が参加してくれました。

緊張の面持ちでスタートした月曜日でしたが、最後の金曜日には、これまでずっと一緒に生活していたかのように積極的に授業や休み時間を過ごし、別れるのが惜しい気持ちになりました。ブリティッシュスクールやアメリカンスクールにいても、リオ日学の仲間は、みな大切な友だちです。また会える日を楽しみにしています。

### ○ 調理実習・大成功！



7月5日(水)、中学部生徒7人(体験入学の3人を含む)が調理実習を行いました。

技術家庭科・家庭分野の学習では食育を学ぶ6つの基礎食品群を取り入れた献立から、実際に調理してみます。この日のメニューは和食の定番、ぶた肉のしょうが焼き・ポテトサラダ・みそ汁(なすとインゲン)・ご飯をすべてブラジル食材で作ります。「今度は家でも作りたい」「親のありがたさがわかった」など、前向きな意見を聞くことができました。

仲間と協力して作った料理は、格別な味わいがあります。今回の調理実習は100点です！

### <魂を悼む季節に>

リオに来るとき、ポケットにお守りを入れました。父の手足をマッサージしたツボ押し棒、母の入院中、枕元に三女が置いたお守り代わりのガラス玉、先代犬を模した犬のキーホルダーです。

時々ポケットに手を入れてはお守りくださいと念じることもありました。先日、ひまわりの苗を移したり、習字で手を洗ったりした後、ポケットにあるはずのキーホルダーが無くなっていました。

どこを探しても見つからず、失意のまま週末を過ごした月曜日、ハイミングさんが洗濯機の近くで見つかったと届けてくれました。先代犬は真っ黒な雑種でクロと言ひ、リオに来て黒犬を見るたびに生まれ変わりでないかと、そっとクロ?と名前を呼んでいました。亡くなった魂を身近に感じながら、また明日!と元気が湧いてきました。